

# 公益財団法人書壇院

## 平成 25 年度 事業報告

### I 公益事業1 書道に関する普及啓蒙活動事業

- 1 所蔵品の調査研究と貸出・公開・・・・・・・・・・ 1 頁
- 2 講演会・ギャラリートーク・・・・・・・・・・ 2 頁
- 3 展覧会・・・・・・・・・・ 3 頁

### II 公益事業2 書道に関する支援・能力開発事業

- 1 書道に関する技能能力の審査・認定・・・・・・・・ 7 頁
- 2 書道教育研究誌の頒布・・・・・・・・・・ 7 頁
- 3 次代を担う指導者の育成・・・・・・・・・・ 9 頁

### III 収益事業

- 1 事務所床賃貸・・・・・・・・・・ 11 頁
- 2 書壇院ギャラリー・書壇院ホール賃貸・・・・・・・・ 11 頁

### IV その他

- 1 懇親会・祝賀会・・・・・・・・・・ 11 頁

## 【Ⅰ】 公益事業1 書道に関する普及啓蒙活動事業

### 『1』 所蔵品の調査研究と貸出・公開

#### 1 企画維持管理

- (1) 書壇院が受入れた新規購入及び寄贈品の整理は、従来、図書カードを使って処理されていたが、今年度よりパソコン入力による処理をするため、事務処理について事務所との連携等について検討中である。
- (2) 苞竹記念文庫の書庫・所蔵品の整理・管理
  - ① 非閲覧書庫の防虫・防カビ対策について専門家のアドバイスを受け、庫内土足禁止とし、定期的に掃除機をかけることとした。(書庫専用掃除機を購入した。)
  - ② 現在、非閲覧書庫の所蔵品のバーコード貼付作業を行っているが、その作業時に書籍・軸類のいたみ、破損を点検し、修理の必要なものに目印を付けた。
- (3) 閲覧用書庫の所蔵品にバーコードと棚番号シールを貼付した。また目録のデータ入力も完了し、パソコン検索が可能となり、平成25年10月よりインターネットで閲覧を開始した。非閲覧書庫の所蔵品に関しては、現在バーコードと棚番号シールの貼付並びに目録のデータ入力を進めている。
- (4) 書壇院ギャラリー展示の実施
  - ① 第89回展(企画展示)

「鶴岡の風—苞竹を育んだ書人たち 沈潜<sup>ふう</sup>の風—」
  - ② 第6回「書壇院 日本文の書」展Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ
  - ③ 第90回展(平常展示)「吉田苞竹展」
  - ④ 第6回「書壇院展院友作品展」Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ
  - ⑤ 第91回展(企画展示)

財団法人設立70周年特別展示「財団設立時 書壇院を支えた作家」
  - ⑥ 第92回展(平常展示)「吉田苞竹展」
- (5) 旧同人作品の整理・保存の作業を進めている。

#### 2 調査研究

- (1) 明治以前の日本の書の拓本の調査
  - ① 釈文の採録については、新たな進捗はない。
  - ② 粗読みを17点した。

- (2) 吉田苞竹及びその書作品に関連する研究論文を募集した。応募作品1点、入選。応募作品の内容の充実を可とし、『書壇』平成26年4月号(3月5日発行)に発表した。
- (3) 鐘銘拓本の整理研究は保留状態。

### 3 展示事業

- (1) 企画展示は以下のとおり

- ① 第89回展

「鶴岡の風—苞竹を育んだ書人たち 沈潜<sup>ふう</sup>の風—」

会期 平成25年4月9日(火)～5月30日(木)

- ② 第91回展

財団法人設立70周年特別展示 「財団設立時 書壇院を支えた作家」

吉田苞竹先生作品1点及び作家作品16点を展示

会期 平成25年11月3日(日)～平成26年2月2日(日)

- (2) 平常展示は以下のとおり

- ① 第90回展 「吉田苞竹展」

会期 平成25年7月31日(水)～9月1日(日)

- ② 第92回展 「吉田苞竹展」

会期 平成26年2月5日(水)～3月9日(日)

## 『2』 講演会・ギャラリートーク

- 1 文化講演会等

第19回文化講演会を実施した。

演 題 「古筆から現代かな書創作」

講 師 山崎 暁子先生

日 時 平成25年6月9日(日)

会 場 国立近代美術館講堂

参 加 139名

受講料 2,000円

## 2 ギャラリートーク

- ・企画展示第 89 回展「鶴岡の風—苞竹を育んだ書人たち 沈潜<sup>ふう</sup>の風—」  
報道招待 平成 25 年 4 月 12 日（金）  
ギャラリートーク 平成 25 年 4 月 9 日（火） 5 月 19 日（日）
- ・企画展示第 91 回展 財団法人設立 70 周年特別展示  
「財団設立時 書壇院を支えた作家」  
ギャラリートーク 平成 26 年 1 月 24 日（金）
- ・第 52 回 竹心展  
ギャラリートーク 平成 25 年 4 月 9 日（火）
- ・第 6 回「書壇院 日本文の書」展  
ギャラリートーク  
平成 25 年 6 月 21 日（金） 7 月 5 日（金） 7 月 19 日（金）
- ・第 6 回「書壇院展院友作品展」  
ギャラリートーク  
平成 25 年 9 月 6 日（金） 9 月 20 日（金） 10 月 4 日（金）
- ・第 80 回記念 書壇院展  
ギャラリートーク 平成 25 年 12 月 7 日（土）

## 『3』 展覧会

### 1 第 52 回 竹心展

この展覧会は書壇院展審査会員＜漢字・かな・南画・日本文＞の新作を展示し、出品者は書壇院創始者吉田苞竹の書道理念に共鳴し、各自がそれぞれの道を切り拓き、我が国書道文化の発展に寄与する展覧会である。

会 期 平成 25 年 4 月 9 日(火)～ 14 日(日)  
会 場 東京銀座画廊・美術館（銀座貿易ビル 7F）  
後 援 全日本書道連盟 毎日新聞社

出 品 者 書壇院展審査会員  
出品協賛金 50,000 円  
出 品 者 176 名

## 2 第 6 回 書壇院 「日本文の書」 展

書壇院展審査会員により、「日本文の書」のあり方を追求し、日本語の詩歌、句と文章を書として表現した作品を 3 期にわたり展示した。

会 期 I 平成 25 年 6 月 19 日 (水)～6 月 30 日 (日)  
II 平成 25 年 7 月 3 日 (水)～7 月 15 日 (月・祝日)  
III 平成 25 年 7 月 18 日 (木)～7 月 28 日 (日)  
会 場 書壇院ギャラリー  
出 品 者 数 128 名 (I 期 43 名、II 期 42 名、III 期 43 名)  
出品協賛金 7,000 円

## 3 第 6 回「書壇院展院友 作品展」

書壇院展の院友が将来の公益財団法人を支える作家として成長する事を目的とし、切磋琢磨した作品を展示した。優秀作には院友展青竹賞を授与した。

会 期 I 平成 25 年 9 月 4 日 (水)～9 月 16 日 (月・祝日)  
II 平成 25 年 9 月 19 日 (木)～9 月 29 日 (日)  
III 平成 25 年 10 月 2 日 (水)～10 月 14 日 (月・祝日)  
会 場 書壇院ギャラリー  
出 品 者 書壇院展院友  
出品協賛金 7,000 円  
出 品 者 数 128 名 (I 期 43 名、II 期 43 名、III 期 42 名)  
院友展青竹賞 I 期 漢字 3 名・かな 1 名  
II 期 漢字 3 名・かな 1 名  
III 期 漢字 1 名・かな 1 名

## 4 第 80 回記念 書壇院展 併催 書壇院学生展

全国公募展として平成 25 年は 80 回記念となり、特別展示—書壇院で活躍した平成歿の作家—を会場内に展示し、記念展という事もあって、連日、非常に多くの来場者があった。

会 期 平成 25 年 12 月 5 日(木)～11 日(水)  
 会 場 東京・上野公園 東京都美術館  
 出 品 者 一般公募  
           書壇院展審査会員・院友  
 特別展示 吉田苞竹作品 4 点  
           —書壇院で活躍した平成歿の作家—  
           43 点  
 後 援 文化庁・全日本書道連盟・毎日新聞社  
 授 賞 式 平成 25 年 12 月 8 日(日) 於：東京都美術館講堂  
 公募部門 第 1 部 漢字自運 (267 点)  
           第 2 部 漢字臨書 (217 点)  
           第 3 部 かな自運 (32 点)  
           第 4 部 かな臨書 (24 点)  
           第 5 部 南画 (26 点)  
           第 6 部 日本文 (16 点)  
           第 7 部 篆刻 (10 点)  
           半切部<漢字・かな・南画・日本文> (227 点)  
 役 員 審査会員 ( 231 点)  
           院 友 ( 228 点)  
 遺 墨 3 点  
 出 品 料 公募 1～5 部 13,000 円  
           公募 6～7 部 10,000 円  
           公募半切部 17,000 円 (表具代を含む)  
 協 賛 金 審 査 会 員 23,000 円  
           院 友 15,000 円  
 褒 賞 審査の結果優秀な作品に内閣総理大臣賞・文部科学大臣賞  
           (公財) 書壇院賞・全日本書道連盟賞・毎日新聞社賞・特  
           選・準特選・秀作・褒状・特賞・優作賞・佳作賞を授与し  
           た。

## 5 第 80 回記念 書壇院学生展

全国高校・中学・小学の生徒、児童の書の理解と芸術表現及び書写能力の向上を目的として作品を募集し、佳作以上に入賞した作品を東京都美術館に展示した。

会 期 平成 25 年 12 月 5 日(木)～11 日(水)

会 場 東京・上野公園 東京都美術館  
 授 賞 式 平成 25 年 12 月 8 日(日) 於：東京都美術館講堂  
 鑑 別 料 高校生 2,000 円 (62 点) 小・中学生 1,500 円 (598 点)  
 陳列諸費用 高校生 全紙 6,500 円 (35 点)  
 高校生 半切 5,500 円 (27 点)  
 中学生 半切 5,500 円 (114 点)  
 小学生 半紙 3 枚つき 4,500 円 (470 点)  
 褒 賞 優秀な作品には推薦・特選・金賞・銀賞・銅賞・佳作を  
 授与した。また副賞として文部科学大臣賞・書壇院展会  
 長賞・毎日新聞社賞・書壇院展清泉賞を授与した。

## 6 他団体主催の展覧会への協力

- (1) 第 48 回高野山競書大会 (主催 高野山總本山金剛峯寺)
- 出品数 学生 1,501 点  
 一般 943 点  
 献書 148 点
- 受 賞 金剛峯寺賞 3 名・高野山管長賞 3 名・毎日新聞社賞  
 2 名・全日本書道連盟賞 2 名・高野山総長賞 4 名・  
 審査委員長賞 6 名・南山賞 11 名・高野山書道協会  
 賞 36 名・推薦 44 名・特選 164 名・準特選 20 名  
 団体として特別優秀賞に選ばれた。
- (2) 第 22 回国際高校生選抜書展 (主催 毎日新聞社)
- 出品数 43 点  
 入 選 2 点
- (3) 第 65 回毎日書道展
- 出品数 漢字 470 点、かな 103 点、近代詩文 5 点、大字書 2 点、  
 篆刻 1 点、参与会員 1 点、審査会員 14 点、会員 54 点
- 錬成会 (漢字部) 参加者 18 名  
 検討会 (漢字部) 参加者 174 名  
 検討会 (かな部) 参加者 10 名

## 【Ⅱ】 公益事業2 書道に関する支援・能力開発事業

### 『1』 書道に関する技能能力の審査・認定

1 各昇位試験及び書道・南画教授認定試験を実施した。

- |                    |    |               |
|--------------------|----|---------------|
| (1) 『書壇』昇位試験       | 締切 | 平成25年6月7日(金)  |
| (2) 『書壇』玄位・妙位・雪位試験 | 締切 | 平成25年8月7日(木)  |
| (3) 書道・南画教授認定試験    | 締切 | 平成25年8月31日(土) |
| (4) 『書壇』上位・極位・雅位試験 | 締切 | 平成26年3月7日(金)  |

### 『2』 書道教育研究誌の頒布

1 書道教育研究誌である月刊『書壇』及び月刊『学生書壇』の刊行について

- (1) 書壇院は、公益財団法人としての理念を体し、次の諸事項を平成25年4月号より実行した。
- 『清泉』の名称を『学生書壇』に復した。
  - 『書壇』・『学生書壇』の誌代を次のように変更した。

『書壇』	1部	900円	→	700円
『学生書壇』	1部	500円	→	400円
  - 「シール」使用の制度を廃止した。

『学生書壇』購読者は、漢字・かな・硬筆すべての部門に無料で出品できるようにした。

『書壇』購読者は、漢字・かな・南画・日本文・篆刻のすべての部門に無料で出品できるようにした。
  - 『学生書壇』を学生専門誌(幼児～高校3年)にした。

従来『清泉』一般部に出品していた購読者が、4月号から『書壇』に編入した場合は級位の特典を設け、バーコード券を今回のみ無料で発行した。
  - 『書壇』賛助員、『学生書壇』賛助員の設定  
過去1年間(4月号～3月号)に購読又は取扱った冊数がある一定以上に達した指導者(あるいは取扱い責任者)を賛助員として姓号(氏名)を誌上に発表し、協力を讃えた。



(2) 『書壇』について

- ① 月例掲載記事及び参考作例等は平成 24 年度に準じて行った。
- ② 平成 24 年 2 月号より裏表紙に連載中の「篆刻鑑賞」は平成 25 年 5 月号で終了し、引き続き「南画鑑賞」として、書壇院所蔵品をカラーで載せ、随筆を添えて連載している。
- ③ 平成 24 年 9 月号より日本文の級位を設定（真位、善位、美位、一位～六位）し、出品意欲を盛り上げ、出品数の増加を図った。
- ④ 書壇院展、毎日書道展への取り組みを身近なものとし、制作意欲を刺激し、出品数の増加を図る目的の 2 尺×6 尺・3 尺×4 尺用参考作品は漢字・かなに日本文も加え、引続き掲載した。
- ⑤ 漢字規定課題は上位・準上位は引き続き唐詩を、玄位～六位及び新規までは五言句とした。
- ⑥ 漢字規定小字の課題は引き続き古典の臨書を取り入れた。
- ⑦ かな規定は同人による参考作品を掲載した。
- ⑧ 南画規定は同人による参考作品及び解説とした。
- ⑨ 平成 24 年 11 月号より『書壇』同人以外の審査会員を対象に新企画「審査会員遊苑」を、漢字部門よりスタートし、日本文、かな、と範囲を広げた。
- ⑩ 随時掲載するものは次のとおりとした。  
「私の好きな古典」「『書壇』を支えた人々」「展覧会案内」「展覧会報告」「書壇院日記」その他。
- ⑪ 毎月の出品票の下にその月の清書締切日時を明記し、遅着のないよう注意を呼びかけた。
- ⑫ 表具店、文房四宝店等の広告をなるべく多く掲載し、誌友への情報提供の拡大を図った。

(3) 『学生書壇』について

- ① 平成 25 年 4 月号より学生専門誌とし、一般部に使用していた紙面を有効活用した。
- ② 手本の種類は以下の通りとした。

毛筆部	幼児、小 1、小 2、小 3、小 4、小 5、小 6、 中 1、中 2、中 3、高校	(11 種)
かな部	かな中学、かな高校	(2 種)
硬筆部	幼児、小 1、小 2、小 3、小 4、小 5、小 6、 中学・高校	(8 種)

- ③ 表紙裏に「吉田苞竹書」と「文字の起源」を載せた。
- ④ 巻頭言を中止し、その紙面を利用して、鑑賞作品として古典の一部を大きく掲載し、やさしい解説を載せた。
- ⑤ 硬筆部は批評欄を廃し、優秀作品写真版掲載を工夫した。
- ⑥ 「特待生紹介」、「教室だより」は従来通り掲載した。

## 2 『書壇』『学生書壇』年間購読部数について

両誌に今後も改善を加え、魅力ある教育研究誌となるよう一層努力した。平成25年度は以下のようなになった。

『書壇』年間購読部数	38,854部	前年比	824部減
『学生書壇』年間購読部数	39,174部	前年比	1,180部増

## 『3』 次代を担う指導者の育成

### 1 書道教室を開講した。

- ・開講講座  
大人：漢字2講座・かな2講座・南画1講座  
子ども：2講座
- ・開講日・場所  
月2回（原則として第2週・第4週） 書壇院ホール
- ・指導者 8名
- ・受講者  
大人 17名（漢字10名、かな6名、南画1名）  
子ども 19名（小学生14名、中学生2名、その他3名）

### 2 書初め会を実施した。

平成26年1月4日（土） 参加者 約70名 書壇院ホール

### 3 書道講習会（篆刻）を実施した。

平成26年2月16日（日） 書壇院ホール

指導者 1名 参加者 15名

### 4 「若竹会」等次世代育成事業を実施した。

(1) 若竹会を年2回

- ① 8月に日本文鍊成会 ② 12月に書壇院展作品批評会

- (2) 第3回インターネット書道展を開催 出品者 13名
- (3) 「大作75の会」(昭和20年以降生まれの会)を開催  
年3回(4月竹心展作品批評、10月作品研究、12月書壇院展作品批評)

## 5 他団体の育成事業への指導協力・支援

- (1) 山形県鶴岡市立朝暘第二小学校(吉田苞竹の母校)  
書初め会への支援
- (2) 東京都港区立麻布小学校  
書初め会 指導支援 指導者8名派遣
- (3) 東京都美術館主催 「TOKYO 書 2014 公募団体の今」展出品協力  
平成26年1月4日(土)~16日(木) 東京都美術館  
出品者 2名

## 【Ⅲ】 収益事業

### 『1』 事務所床賃貸事業

賃貸人公益財団法人書壇院と賃借人森ビル株式会社が契約締結した「建物賃貸借契約書」に基づき、本院が所有する事務所（港区六本木1-9-10 アークヒルズ仙石山森タワー27階部分 2063.88 m<sup>2</sup>）床を賃貸した。

### 『2』 書壇院ギャラリー・書壇院ホール賃貸事業

公益財団法人書壇院「書壇院ギャラリー」「書壇院ホール」借用規程に基づき、利用者の使用に供した。

## 【Ⅳ】 その他

### 『1』 懇親会・祝賀会開催

公益事業である展覧会及び講演会実施に付随して懇親会・祝賀会等を開催した。

- 1 「第52回竹心展」出品者懇親会  
平成25年4月9日（火）  
会場：東京会館 東商スカイルーム 参加者 111名
- 2 「第80回記念書壇院展」親睦会  
平成25年12月4日（水）  
会場：ミュージアムテラス（東京都美術館内） 参加者 93名
- 3 「第80回記念書壇院展」祝賀会  
平成25年12月8日（日）  
会場：帝国ホテル 出席者 495名
- 4 「第19回文化講演会」懇親会  
平成25年6月9日（日）  
会場：KKRホテル東京 参加者 37名